

県道新井柿崎線整備促進議員連盟が県振興局に要望書提出 現地調査では地元住民の声も聞き、要望内容を確認

県道新井柿崎線整備促進議員連盟（宮崎政国会長）は7月31日、関係住民から整備、改善の要望が出ている箇所を現地調査を行い、調査後、県上越振興局に要望書を手渡しました。

県道新井柿崎線は全長31・6kmの主要地方道。上越市の南北を走る幹線道路で、1日当たり7500台からの交通量があります。その

のうち大型車は1600台（21%）ですが、道幅の狭いところや歩道がないところ、防雪柵が必要などところがあり、早急な整備が求められています。

現地調査は2年ぶりでした。調査は板倉区からスタートして柿崎区まで関係住民から出ていた側溝整備、歩道設置、防雪柵設置などの要望か所を見て回りました。い

ずれも地元町内会長さんなどが訴え、上越地域振興局の担当者がどう対応しているかなどについて答えていました。

要望箇所のうち、野尻橋周辺の歩道については、「用地確保が終われば年内にでも発注したい」とのことでした。青野十文字付近の歩道整備も前進しそうです。梶十



【アピオス】荒れた畑に咲いていた花。マメ科の多年草で、ツル性です。最初、オオバクサフジかと思ったのですが、かつて畑で作ったときの生き残りでした。秋が楽しみです。花はフジを思わせる形です。1日撮影。

文字から江島までの防雪柵促進については内雁子や吉川区旭地区の町内会長さんたちが県当局に訴えていました。梶十文字付近の防雪柵は今年度150mほど延伸することです。（左写真は馬正面）



凡 例	
歩道整備の促進	赤色
雪寒施設整備事業の促進	青色
道路改良の促進	オレンジ色
交差点改良の促進	緑色
側溝設置	紫色



はしづめ法一の活動レポート

No.1818 2017.8.6
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら


春よ来い

第四六六回 ウワミズザクラの実

何でいままで気づかなかったのでしょうか。ウワミズザクラの実も他のサクラと同じように「サクラの実」として食べられる。私は、そのことを今年の七月九日まで知らなかったのです。

ウワミズザクラというのはバラ科の落葉高木で、私の地域ではネズミザクラとかアソニンゴという名で知られています。花は白、小さな花がびっしり並ぶ姿はまるでブラシのようです。花が咲く前のつぼみを塩漬にして食べると、滋養強壮、精力回復に効能があると言われています。

七月七日、私は朝の散歩道で緑色のウワミズザクラの実を撮り、フェイスブックで発信していました。写真のそばには「熟したら、いちど、食べてみよう」という言葉を添えてみました。正直言つて、「熟したら云々」と書いたときには、緑色の実がどんなふうになっていくのかまったくイメーヂがわからず、実は食べられるかどうか確かめてみようという思いだったのです。

そうしたら、「杉並の縄文人」、考古学者の岡村道夫さんが二日後にコメントを寄せてくださいました。

岡村さんは私の思いを感じとってくさったのでしょうか。岡村さんのコメントには、「日本在来(縄文時代来の)のヤマザクラの仲間、サクラランボが食べれますし、樹皮は樺細工になってきました。低湿地遺跡を掘ると種や樺製品が良く出てきます。昭和三十年くらいまでは、桑子・グミ、キイチゴなどと並んでよく食べられていました。結構甘くておいしいですよ」とありました。

こういうコメントをいただくと私の好奇心にエンジンがかかります。その日以降、散歩するたびに、ウワミズザクラの木の枝に目をやり、何か変化が生まれていないか

と観察するようになりました。

七月の一六日の朝五時半過ぎでした。ウワミズザクラの実に大きな変化が出たことを知ったのは、それまで徐々に実は緑色から薄赤い色に変化し続けていたのですが、実の一粒が黒く変化していたのです。

枝を引き寄せ、実がついた部分をよく見てみると、そこには直径五ミリの実が十数個ありました。そのなかで、熟して黒くなった一粒をみましました。大きさは確かにひと回り小さいですが、形は、昔から食べていたサクラの実とほぼ同じでした。

もいだ実は口の中に入れてみました。すると、昔からなじんできたサクラの実と同じく、薄甘い味が広がりました。岡村さんの指摘通りです。私は、ウワミズザクラの花を初めて見たときから、勝手に、他のサクラとまったく別物という先入観を持っていました。それは完全に間違いでした。

ウワミズザクラの実は少しずつ熟し、八月に入りたいまも食べることができません。数日前、私の事務所の近くで畑仕事をしていた青年時代からの友人、A子さんにあげたところ、「初めて見た」と言います。食べたのも初めてのことでした。私だけではないかと思ったら、「熟した実も食べられる」ことを知らなかったのは……。

とてもめずらしそうにしているの、A子さんに言うと、「あらそう、そりゃたいへん」と平然とした表情で言葉を返してきました。さすが六〇代です。

A子さんは残った実を家に持って行っていいかと私に聞きました。なんでもこの実をお連れ合いに食べさせてあげたいんだとか。やさしいですね。私は「どうぞ」と言いました。そう言えば、ウワミズザクラの花言葉は「持続する愛情」でした。



上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μ Sv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月26日(水)	8月2日(水)
上越南消防署	0.033	0.040
上越北消防署	0.057	0.043
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.053	0.060
東頸消防署	0.053	0.057
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.047	0.050

光徳寺作品展、今年も賑やかに開催

柿崎区直海浜の光徳寺において1日から始まった「光徳寺作品展」へ行ってきました。私が訪れたのは午後2時半から約1時間でしたが、次々と人が観にこられたのにはびっくりでした。

「光徳寺作品展」には地元の柿崎区を中心に吉川、大潟など旧頸北地域からの作品が出展されています。近年は市外からの作品も多くなってきました。

この作品展のいいところの一つは子どもから高齢者まで誰でも出展できることです。柿崎区下条のFさんは文字通り「初めての絵」というタイトルで野菜などの絵を

出されていましたが、初めて描いたとは思えない素敵な絵でした。花とウサギなど小動物を面白く描いた小学校4年生の作品も出ていますよ。ご住職によると、私たちがすんでいる地域には「優れた作品を作っているのに、知られていない作者がたくさんいる」とのことです。

もう一つ、ここでは作者や鑑賞に来た人と気軽に交流できるのも魅力です。私も久しぶりに吉川区川谷出身のMさんなどと再会しました。いろんな出会いがありますよ。あなたも出かけてみませんか。作品展は16日までです。

春よ来い

第四六六回

ウワミズザクラの実

何でいままで気づかなかったのでしょうか。ウワミズザクラの実も他のサクラと同じように「サクラの実」として食べられる。私は、そのことを今年の七月九日まで知らなかったのです。

ウワミズザクラというのはバラ科の落葉高木で、私の地域ではネズミザクラとかアリンゴという名で知られています。花は白、小さな花がびっしり並ぶ姿はまるでブラシのようです。花が咲く前のつぼみを塩漬にして食べると、滋養強壮、精力回復に効能があると言われています。

七月七日、私は朝の散歩道で緑色のウワミズザクラの実を撮り、フェイスブックで発信していました。写真のそばには「熟したら、いちど、食べてみよう」という言葉を添えてみました。正直言って、「熟したら云々」と書いたときには、緑色の実がどんなふうになっていくのかまったくイメーヂがわからず、実は食べられるかどうか確かめてみようという思いだったのです。

そうしたら、「杉並の縄文人」、考古学者の岡村道夫さんが二日後にコメントを寄せてくださいました。

岡村さんは私の思いを感じとってくださったのでしょうか。岡村さんのコメントには、「日本在来(縄文時代来の)のヤマザクラの仲間、サクラランボが食べれますし、樹皮は樺細工になってきました。低湿地遺跡を掘ると種や樺製品が良く出てきます。昭和三十年くらいまでは、桑子・グミ、キイチゴなどと並んでよく食べられていました。結構甘くておいしいですよ」とありました。

こういうコメントをいただくと私の好奇心にエンジンがかかります。その日以降、散歩するたびに、ウワミズザクラの木の枝に目をやり、何か変化が生まれていないか

と観察するようになりました。

七月の一六日の朝五時半過ぎでした。ウワミズザクラの実に大きな変化が出たことを知ったのは、それまで徐々に実は緑色から薄赤い色に変化し続けていたのですが、実の一粒が黒く変化していたのです。

枝を引き寄せ、実がついた部分をよく見てみると、そこには直径五ミリの実が十数個ありました。そのなかで、熟して黒くなった一粒をみましました。大きさは確かにひと回り小さいですが、形は、昔から食べていたサクラの実とほぼ同じでした。

もいだ実は口の中に入れてみました。すると、昔からなじんできたサクラの実と同じく、薄甘い味が広がりました。岡村さんの指摘通りです。私は、ウワミズザクラの花を初めて見たときから、勝手に、他のサクラとまったく別物という先入観を持っていました。それは完全に間違いでした。

ウワミズザクラの実は少しずつ熟し、八月に入りたいまも食べることができません。数日前、私の事務所の近くで畑仕事をしていた青年時代からの友人、A子さんにあげたところ、「初めて見た」と言います。食べたのも初めてのことでした。私だけではないかと思ったら、「熟した実も食べられる」ことを知らなかったのは……。

とてもめずらしそうにしているの、A子さんに言うと、「あらそう、そりゃたいへん」と平然とした表情で言葉を返してきました。さすが六〇代です。

A子さんは残った実を家に持って行っていいかと私に聞きました。なんでもこの実をお連れ合いに食べさせてあげたいんだとか。やさしいですね。私は「どうぞ」と言いました。そう言えば、ウワミズザクラの花言葉は「持続する愛情」でした。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月26日(水)	8月2日(水)
上越南消防署	0.033	0.040
上越北消防署	0.057	0.043
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.053	0.060
東頸消防署	0.053	0.057
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.047	0.050

パラソルの下で楽しいおしゃべりはずんで

先週の日曜日は吉川区で友人と会ってから大島区へと向かいました。到着は11時半頃。大島区のみれあい館の周辺では夏まつりが行われていました。

まずは綱引き観戦、何度もシャッターを切ったのですが、なかなか気に入ったものが撮れませんでした。

みれあい館の外では腹ごしらえをしました。パラソルの下にいると何人もの人が声をかけてくださいました。私はいくつものパラソルを移動しながら麦茶2本、焼きそば、うどんを食べ、なんと3時間ほど滞在しました。

何をしていたかというとおしゃべりです。私に声をかけてくださった人で、一番多かったのは野の花が好きな人。その日の活動レポートに載せたりヨウブや前々回載せたヒヨドリジョウゴについて質問されました。スマホに撮った写真はいうまでもなくカラーです。カラーで見た花の写真に驚く人が何人もいました。次は母のことかな。「お母さん、元気でいになったね」とか「今日も朝、読ませてもらいましたよ」などと言って話しかけてくださる人が多かったですね。

とても楽しいひと時でした。